

福田会育児院創設から恵愛部設立以前に福田会に寄せられた寄附について

— 『明教新誌』掲載の寄付関係記事から —

○ 専修大学名誉教授・福田会育児院史研究会 氏名 宇都榮子 (000207)

キーワード3つ：仏教系児童施設・寄附・仏教諸宗派合同

1. 研究目的

明治期創設の児童施設（現在の児童養護施設）の運営資金は、救護法、社会事業法等の社会救济制度成立以前は、施設を支援する人々からの寄付金品によって賄われていた。当期を代表する児童施設の一つである福田会育児院（仏教諸宗派合同で1879年設立、以下福田会、現社会福祉法人福田会、東京都渋谷区広尾に続く、現在は、児童養護施設広尾ホーム、福祉型障害児施設、宮代学園、高齢者施設を運営）においても同様であった。福田会育児院の開設以来の経済については、中里日勝編著『福田会沿革略史』福田会、1882年で触れている。しかし、創立の1879年から恵愛部（いわゆる上流夫人による福田会の支援組織、1889年）設立以前の経済については、「自明治十二年六月至同二十一年十二月収入支出計算」（中里上掲書182頁）で「創業収支一覧」として収入、支出、収支差引残高のみ記載されている。その理由として「明治廿二年度以前ハ毎年度計算書類の抛るべきものなく単に創業収支一覧の一表あるのみ」としている。従って1889年から1881年については収入支出一覧表が費目別に整理され、資産についても整理されている。

そこで本研究では創立から恵愛部設立以前の時期の福田会の経済について明らかにすることを目指し、その中でも人々からの寄付金の実際を明らかにしていきたいと考えている。

2. 研究の視点および方法

仏教諸宗派合同という形で始まった福田会育児院の運営は、永続会友（僧侶）、随喜会友、一般の人びとの捐助金、慈善箱への投入金等を経済的基盤としてなされていた。福田会育児院創立から恵愛部設立以前までの会友の会費、人びとからの捐助金について明らかにできないと福田会育児院の創立からの経済の実際を把握できない。そこで仏教系新聞『明教新誌』を福田会の経済を把握する資料とすることが出来るのではないかと考えた。

『明教新誌』では、仏教諸宗派合同で設立された福田会育児院の創立からその後の活動の実際、人びとからの寄付の実際についての記事が掲載されていたからである。

3. 倫理的配慮

本研究は、「日本社会福祉学会研究倫理規程」及び「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」の基づいて発表を行う。なお、報告者と調査対象等はCOI関係にない。

4. 研究結果

本研究に該当する期間の『明教新誌』には福田会育児院関係の記事は、以下の様に掲載

されている。1879（明治12）年は、創立前の第761号（1879年2月2日）から第918号（12月26日）迄38件、1880（明治13）年は、第934号（2月4日）から第1091号（12月28日）まで84件、1881（明治14）年は、第1092号（1月4日）から第1263号（12月28日）迄84件、1882（明治15）年は、第1266号（1月8日）から第1433号（12月18日）迄73件、1883（明治16）年は、第1442号（1月10日）から第1604号（12月12日）迄69件、1884（明治17）年は、第1686号（1月14日）から第1785号（12月28日）迄55件、1885（明治18）年は、第1788号（1月8日）から第1954号（12月20日）迄37件、1886（明治19）年は、第1961号（1月8日）から第2121号（12月6日）迄29件、1887（明治20）年は、第2136号（1月10日）から第2302号（12月20日）迄37件、1888（明治21）年は、第2307号（1月4日）から第2472号（12月16日）迄44件の福田会関係記事が掲載されている。

創立時の1879年には、創立迄の経緯や「福田会育児院規則」「福田会慈恵金送付手続告白」等の規則が掲載されている。さらに雑報欄に寄附金が個人別やお寺別に掲載され、福田会育児院捐助者姓名などが掲載されている。翌年の1880年には第1回惣集會が開催され、そこでは新居日薩会長が「必ずや数年の後て海内に遍布して一の無告窮兒なからしめんと欲す」と述べている。福田会育児院の経済的基盤は、会友の会費、一般の人びとからの寄付を基礎に考えられていたので、寄附がどのくらい集まるかが重要なことであった。しかしながら、上述した『明教新誌』の記事からみるとなかなか難しい事であった。

福田会は、年に2回の総集會を開催し、入所児童の数、慈善箱の設置個所、寄せられた寄付などについて報告している。福田会は、智泉院という大変手狭な事務所から本郷麟祥院に1881（明治14）年には移転している。ここも手狭だったので、広いところに移転することを望んでいた。そのため明治14年には「福田会育児院堂宇建築勸縁簿」を作り配布している。また、「福田会育児院永続浄資日課の次第」を同年には作成、これを配布した。また、慈善箱も各地に置いたことが『明教新誌』にも明らかにされているが、なかなか寄附金が集まることは難しかったようである。

5. 考 察

『明教新誌』掲載の福田会育児院関係記事が創立期から恵愛部創立以前を埋める史料となることは把握できたが、その実際を本研究では明確にできていないので次の課題としたい。

本発表は、2024年度科学研究費基盤研究C、課題番号23K01824研究代表者（宇都榮子）「明治・大正期の福田会育児院の財政に占める寄付の全容と寄付文化に関する研究」の研究成果の一部である。